

第7回 アイテム写真コンテスト「はたらくすがた」

講 評

選考委員長

田沼 武能

社団法人 日本写真家協会 会長

本年度で7回目を迎えるコンテストには、全国より約5,900点もの作品が寄せられ、最終選考も甲乙つけがたい激戦となりました。毎年子供たちそれぞれの視点で撮られた働く姿は、働いている人物の背景や気持ちなどが飾らず写し出されており、子供たちの驚きや感動のメッセージと共に届きます。

子供ながらの自由な発想と大胆な構図、大人ではなかなか撮れない素直な作品もあり、楽しみながら選考を行うことができました。また今年は高等学校からの応募も増え、高校生の部では写真としての技術が高い作品も多く見受けられました。

小学生の部・グランプリの杉本武士さんの作品は、獣医である父親が手術に取り組むその表情から、真剣さと一生懸命さが伝わってきます。

中学生の部・グランプリの丸山友裕さんは、店頭のにぎやかな商いの様子や、長い間地元の商店を営んできたであろう祖父の心意気が伝わってくる作品でした。

高校生の部・グランプリの大城翔太郎さんの作品は、沖縄らしい南国の明るさが漂っており、年を重ねても楽しく元気に働いている市場の「おばあちゃん」の雰囲気が見えられています。

学校での宿題として取り組んだ作品も数多くあり、年々職業教育への関心の高まりが感じられますが、身近な人の働く姿を改めて見つめることは、職業観を育むもっとも身近な方法とも言えます。

作品の撮影をきっかけに、家族が働く姿を初めて見る子供も数多くいたのではないかと思います。そして普段とは違うその表情や様子に驚き、社会を支える「働く」ことの大切さを感じとってくれたのではないのでしょうか。